



令和5年度 4月号

和田中だより

多摩市立和田中学校 HP アドレス <http://schit.net/tama/jhwada/>

☆毎日更新します！



(入学式式辞原文より一部抜粋)

新入生の皆さん、入学おめでとう！標準服を着た君たちはとても輝いています。さあ、中学校生活のスタートです。義務教育最後の3年間で、本校の教育目標にある『じょうぶな体をもって、深く考え進んで実践し、感受性豊かな生徒』を目指してください。その達成のために、この会場にいる、新入生、在校生、教職員、保護者・地域の皆様に1つ提案します。それは、「とことん考えよう！」ということ。ここでは特に人間関係、そう多様性について考えようという提案です。人はよく、じっくり話し合えば両方で納得できると言いますが、現実はその単純ではなく、現に国際社会では戦争すら起こっています。……

でも同じ人間なんていない。みんな考え方や事情も違う。だから、自分と相手は違うんだと理解してほしい。自分の価値観を正しいと決めつけ、相手に押し付けないでほしい。その上で、「どういう言葉を使えば自分の気持ちが相手に伝わるのか」「どうすれば、自分と違う相手の思いを叶えてあげられるのか」和田中学校にかかわる全ての人で、いつでも、どこでも、誰とでも、とことん考えて行くことを提案します。

多様性の本質とは

校長 生田目 将

2, 3年生の皆さん、保護者の皆様、進級おめでとうございます。令和5年度もよろしくお願ひいたします。ようやく新型コロナウイルス感染のトンネルも抜け出ます。新1年生132人が加わった4月からは感染対策は施したうえで通常の学校生活でマスクの着用の必要がなくなります。友だち同士のかかわりや先生との会話などがさらに楽しくなればいいなと願ひます。ただし、マスクの脱着は本人の意思が大切であり、それぞれの思いを尊重する和田中の考え方はこれまでと変わりません。

さて、昨年(2022年)の12月に開かれた「第44回子どものからだと心・全国研究会議」の報告書で、ある校長先生はコロナ禍であってもコロナ禍でなくとも教育の目指すところはブレてはならない。PCは学びのための道具であることを忘れない。生徒・保護者・地域はアイデアの宝庫！対話こそが危機を救う。子どもたちはまさに「コロンブスの卵」である。とトピックで語っています。和田中も教育の本質を見つめ、生徒や保護者・地域との対話を大切に様々な意見に耳を傾け、子どもたちに負けないように失敗を恐れず教育活動を展開していきたいと強く思いました。

また、JT生命誌研究館の名誉館長の中村桂子先生からは本質を問う(内発的)こと、本当に大事なことは何だろうと考えることの大切さを学びました。生物多様性において人間の自分たちが、外から、そして上から目線で「守ってやろう」という発想でよいのか。「ともに生きていこう」という『中から目線』であるべき。学校教育、家庭教育においても、子どもに対しても「中から目線」が大切であり、多様性とは『区別はあるが差別はなく違いを理解し尊ぶ』ことを学びました。

入学式でお伝えしたように、「自分と相手は違って当たり前、自分も相手も大切にするためにはどうすればいいのか、チームWADAで考えていきましょう。

～ 保護者・地域の皆様へ ～

和田中学校は保護者・地域の皆様と一丸となって生徒の育成に取り組み、『生徒・教職員・保護者・地域が元気で笑顔になる学校』『自分の好き(すき)に手(て)を入れて、素敵(すてき)なことを創造する学校』をつくっていきたくて願ひています。生徒の健全育成の基本姿勢は、「主体性」「人権感覚」「多様性」「いのちと心」「良好な学習集団」を大切に、『温かく甘くない』『厳しく冷たくない』支援・指導を心がけることです。本校の教員・管理職等と教育活動についてたくさん語り合ってください。詳細はHP 学校経営ビジョンをご覧ください。また、校長は『校長室喫茶(PrincipalCoffee)』(お知らせは保護者会で配布)を開き、教員・保護者・地域との教育談義の時間を楽しみにしております。ご参加ください。